

# 創造の広場 多摩美の 生命を窒息させない

ようせい

## — 学友会三役声明 —

全ての多摩美術大学の学生、教職員、卒業生、父兄に訴えます。

多摩美は現在、「理事長」村田晴彦氏による学長真下信一先生、教務部長山脇国利先生に対する一方的、何らの理由の示されしていない不当な解任解職通告という重大な事態に直面しています。

私達学生は、「理事長」村田氏とその追従者によるこの暴挙を絶対に許すことはできません。私達、学友会三役はこの暴挙を徹底的に糾弾し、「理事長」村田氏の退陣と、個性の府、創造の広場としての多摩美をめぐり、最後まで闘うことを決意すると同時に皆さんが、共に抗議の意志を村田氏とその追従者に対して示し、真下先生、山脇先生に激励と支持の言葉をよせていくことを呼びかけます。

## 《経過と詳細》

去る五十年度入試選考最中の二月十五日深夜、真下山脇両先生に、何ら理由の示されしていない「解任、解職通告」が届けられた。「理事長」村田氏は同日、理事五名の連名による理事会開催請求に応える代りに高田理事長を委員長とする「査問委員会」なるものを、理事会にも教授会にもはかることなく、捏造し、昭和四十八年度の入試に不正があったとして、その責任をとめ、て解任解職通告をつきつけたものである。

しかし、四十八年度の入試に不正があったなどというのは、理事長のこじつけに過ぎず、何らの根拠を持たないことである。

「理事長」村田氏は、寄附行態の学校法人多摩美術大学運営に及ぼす規則に違反し、多摩美の事務局長を二年前、

に停年退職した後も理事長の座に固執していること、教え  
切れない不正支出、同時に、度重なる理事会開催請求を無  
視し、あるいは、応える素振りをみせながら、するすると  
引き延べてきた。更には、学長との間にかめされた多摩  
美の教学権と運営権の分離の約束を踏みにじり、「学長選  
挙が行われれば、理事長を退く」と六月には退く、あるい  
は、「図書館が完成したら辞る」と自ら言明しておきながら  
その度に自分の言動を無責任にひるがえし、自己保身をは  
かってきた。

学生は去る昭和四十九年六月十五日の学生総会において  
対理事長団交要求を決議し、その後、六度にわたって要求  
書を送ってきたが、最初は病院に逃げこみ、学生の動きが  
にぶってきたと判断するや、その要求書さえ、封も切らず  
に返送してくるといふ卑怯極まりない策動を行ってきた。  
そして学生が休暇で登校しなくなつたこの時期を見はか  
らつて学生の意志も、教職員の意志も、理事五名の意志も  
全く無視して、このような不当な策動をおこなうというこ  
とは、理事長の体質がいかに陰湿なものであるかを改めて  
明らかにしたものであり、学生は心底からの憤りを感じず  
にはいられないであろう。

### 《今後予想される事態》

このような暴挙を看過することは、単に真下、山脇両先  
生の問題では決してなく、多摩美の大学としての理性の府  
創造の広場としての存立の危機に關する問題である。こ  
の事態を放置することは、当面、卒業式、入学式の実施や  
卒業、入学書類の発行が不可能になるだけでなく、大学と  
しての黎明を向えている多摩美を再び村田氏による完全私  
物化とし、学生教職員の無権利状態による、大学として  
の生命の窒息を招くことは明きらかである。

今後「理事長」村田氏とその追従者たちは、真下、山脇  
両先生を校舎に入れまいと暴力による阻止行動に出るだけ  
でなく、学長及び教務部長の代行を擁立し、既成事実を作  
りあげることをもくろむことはおそらく必然の成り行きで  
あらうと思われる。

現在、理事五名と真下学長は、「理事長」村田氏の職務執  
行停止と、真下、山脇両先生の地位保全の仮処分申請をし  
ている。仮処分申請が受け入れられ、訴訟となつたとしても  
理事長の敗北は目に見えている。

しかし訴訟はその解決に数年を要するものであり、「理事長」村田氏は、その間に、学長代行をなして、既成事実をつくりあわせてしまおう。それだけでなく訴訟に要する多大の費用を村田氏は、全て、この私達の多摩美の財政からだすのである。私達は、過去における数々の理事長に対する訴訟、七十年紛争の経験からしても、そのように、不当な事を、既成事実化しようとする企てを、断固、くいとめなければならぬ。

以上のような観点から、当面、私達は、次の行動を提起したいと思います。

一。「理事長」村田氏と、その御用へ査問委員会への暴挙に對する糾弾と抗議の意志を表明する署名運動

。一月八日の理事会の確認書の内容である「理事長」村田氏の資格喪失に對する確認の支持

「理事長」村田氏の退陣要求署名

。学長真下信一先生と、教務部長山脇国利先生に對する支持・激励の署名

二。「理事長」村田氏と、その追従者への抗議・糾弾の電話・葉書の郵送

三。真下、山脇両先生に對する支持・激励の電話・葉書

過去において、数多くの良心的教職員が、村田氏の専横に耐えかねて、多摩美を去つていった。しかし、学生は、過去一貫して、村田の私物化を打破するためには、闘つてきた。これは学友会の伝統であり誇りでもある。

今こそ、学生、教職員は一体となつて、この暴挙を糾弾し、真に理性の府、創造の広場としての多摩美への道を切り拓くときであらうと思ひます。

学友会、三役はその斗いの先頭にたつことを決意しつつ、広く、学友、教職員に、抗議行動に、あらゆる形で、立ち上がられることを、心底から訴えて、三役の声明としたいと思います。